

あいさつがこだまする学校 くるのが楽しい学校

阿小の友

つながる学校 しょうらいの夢がもてる学校

ミッション（使命）

「一人一人に小さな自信を育てる」

■ 学校だより ■

第2号（通巻13号）

平成28年7月8日

高根沢町立阿久津小学校

「3つの学び」を育てます。



子どものことは 子どもから学びましょう。

～子どもを理解するには 謙虚になること～

「高い穴」と「深い穴」

原っぱで、2人の子どもが、遊んでいました。
1人が、かなり深い穴に、落ちてしまいました。
もう1人は、腹ばいになって
穴の中の友達を、助け出しました。
翌日、穴に落ちた子どもが、
先生に、その話をしました。



「先生、昨日、高い穴に落ちたんだ。」
すると、先生はすかさず
「高い穴じゃなくて、深い穴でしょ。」

左のような話を read したこと
があります。

みなさんは、「高い穴」に落
ちたと言った子どもに対して、
何とおっしゃいますか。

『「高い穴」じゃなくて、『深
い穴』でしょ。』と、言葉を返
すでしょうか。

それとも、「そう、『高い穴』
に落ちたんだ。それで…」と
言葉を返すでしょうか。

国語の正しい表現では、「深い穴」が正しいでしょう。でも、穴に落ちた子どもにすれば、それは「高い穴」という表現がピッタリだったのでしょ。まずは、子どもの言葉を受け止める、子どもの気持ちを理解することが大切ではないでしょうか。そのためには…。

先日、栃木県教育委員会教育長さんのお話で、次の言葉をお聞きしました。

★「教育とは、夢を語ること。学ぶとは、謙虚さを学ぶこと。」★

私たちは、子どもの話を聞いたり子どもと話したりする際に、保護者だからとか、大人だからとかという、いわゆる上から目線という態度で子どもに向き合っていることが多くないでしょうか。子ども、我が子を理解するには、謙虚さも必要ではないかと思ひます。子どもと同じ立場（場所）に立つとも言えますね。そして、「子どもから学ぶ」という気持ちも大切だと思ひます。私たちも、何十年前は、誰もが子どもだったのでしょから…。



英語の「understand」（理解する）って…？
原義：下に（under）立つ（stand）
→ 間に立つ → 理解する

「思い上がらず、下座に徹して生きる時、天が君を助けてくれる」

by 森 信三



「3つの学び」を一緒に育てましょう。



～習慣は第二の天性なり～

Habit is second nature.



本校では、御存じのように「3つの学び」を育てることに力を入れています。「3つの学び」とは、「1の学び（学習習慣）」、「2の学び（生活習慣）」、「3の学び（健康習慣）」のことです。これらを、「要（かなめ）となる習慣」（Keystone Habit）とも呼んでいます。

「私たちの生活はすべて、習慣の集まりにすぎない」（ウィリアム・ジェームズ）という言葉があります。子どもたちに、よい習慣を身に付けさせたいですね。もうすぐ夏休みです。家庭においても、お子様と話し合い、何か1つはよい習慣づくりにチャレンジしてみるのはいかがでしょうか。以前読んだ「かにの本～子どもを悪くする手引き～」（ザルツマン著）の中に、こんな言葉がありました。



「お父さん、まずお父さんがしてみせてくださるなら、わたしもそうします。」

やはり、まずは私達が範を示すことも大切でしょうか。例えば、あいさつ（「2の学び（生活習慣）」）はいかがでしょうか。

私は、「朝のあいさつ、自ら先に！」という言葉をもっと、「あいさつカウンター」（計数器）を使って、あいさつ運動に取り組んでいます。1日500回をめあてにしています。子どもたちのあいさつも、少しずつよい習慣が身に付いてきていると感じます。「あいさつがこだまする学校」に向かっています。

阿小っ子の合言葉「自分で 自分から」は、私達大人の合言葉でもありますね。率先垂範（そっせんすいはん）がスタートです。



朝のあいさつ運動

PTA研修旅行
栃木市方面
7月6日（水）
～PTA教養部主催～



おめでとう

阿久津エンジェルス（ソフトボール部）は、5月に行われました県大会で第3位の荣誉に輝きましたが、この度、8月に開催されます関東大会に出場することになりました。部員11名での快挙です。本当におめでとうございます。

